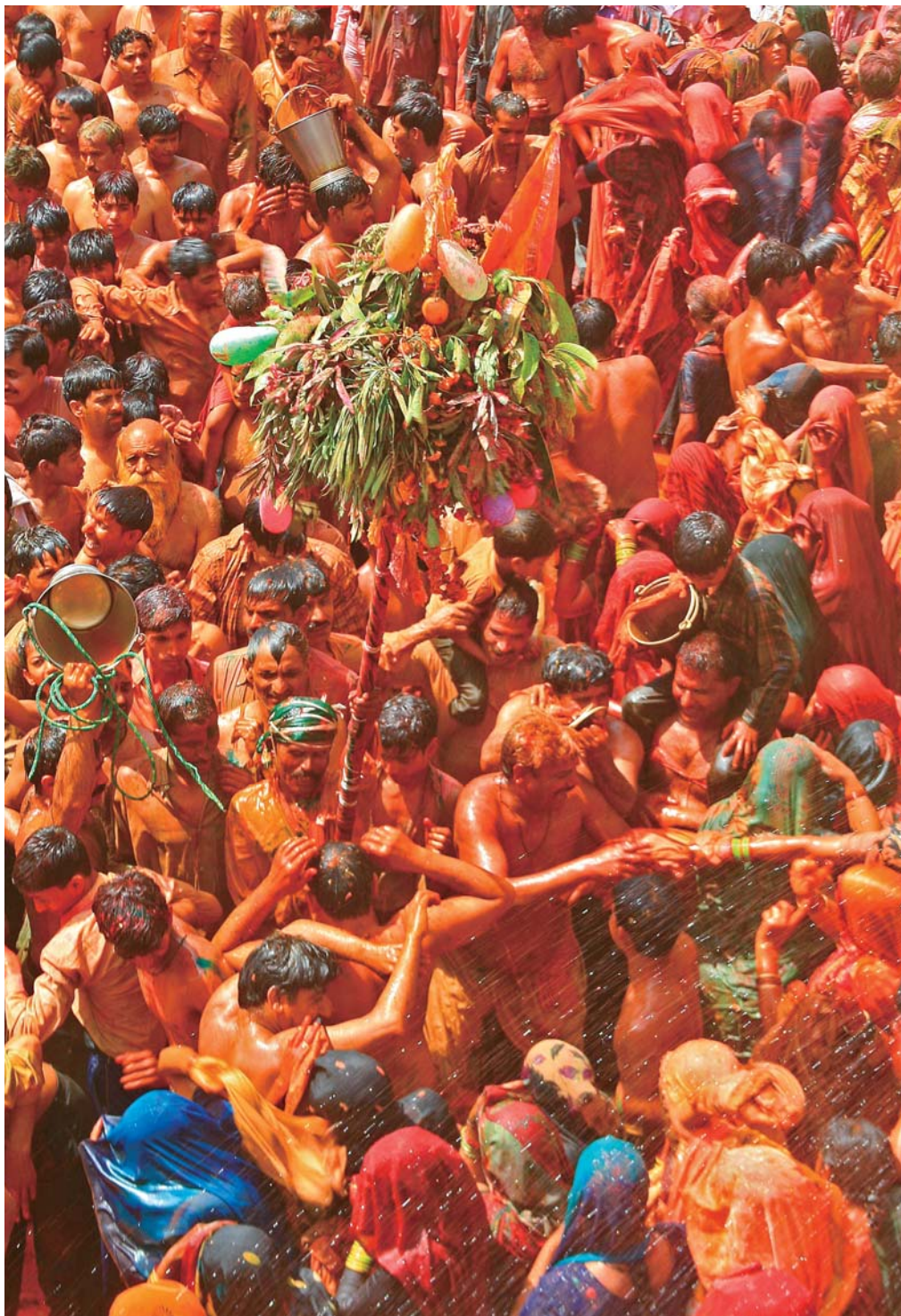


色をかけて 愛を確かめ合う



3月の満月の日、インドでは春の訪れを祝う「ホーリー」が盛大に開かれる。この祭りでは、暖かい季節の到来を待ち望んでいたかのように、宗教やカーストに関係なく無礼講が許され、子どもも大人も色粉を投げ合ったり色水をかけ合ったりして戯れる。また、人々はパーティーをしてお菓子を食べ、お酒を飲んで、友人や隣人との友愛を確かめ合う。

インド全土で最も有名なのは、クリシュナ神の生誕地とされるマトウーラ、プリンダーヴァンにあるバカイビハリ寺院で催されるホーリー祭だ。ヒンドゥー教の神クリシュナがプリンダーヴァンの庭園で宮廷の女性たちと色をかけ合って遊んだのが、始まりといわれている。そして、この地方には面白い慣習が残っており、女性はバケツに入った色水を男性にかけたり、服を引きちぎってひっぱいたりする。これは、日ごろ我慢している女性たちが男たちに反撃しているといわれるが、クリシュナとその恋人ラーダーが戯れているようにも見えて、どこことなくほほ笑ましい。

ホーリーはまた、善が悪に勝ったことを祝う日でもある。かがり火をたき、悪い物を火にくべて、人間が日常で犯した罪をなくしてしまおうという意味もある祭りなのだ。